

学習指導案

令和元年度

教科・科目	国語科・現代文B	氏名	西澤俊輔	学校名	北海道七飯高等学校
日時	令和元年9月20日(金)			学年・学級	2学年2-2

I 単元名 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにする。

(現代文B 3内容 (1)指導事項 オ)

II 単元の指導計画

- 1 「抽象と具体」の理解(単元目標の説明、「抽象」・「具体」の理解)・・・1～2時間
- 2 教材内容の読解(抽象語の説明(具体)を読み取る)・・・2～3時間(本時)
- 3 演習(抽象語の説明を読解し、筆者の考えを説明する)・・・1～2時間

III 本時の目標

- 1 「抽象語」を具体的に言い換えている箇所を読みとるための考え方を学ぶ。
- 2 実際に、抽象的な言葉について筆者がどのように言い換えているかを読み取る。
- 3 抽象的な言葉について、話し合いを通じて自分の考えを深め、筆者の論を理解する。

IV 本時の展開

指導段階	指導内容	学習活動	指導上の留意点 評価の観点
導入 5分	①前時の振り返り ②目標の確認 ③時程の確認	①ワークシート裏面の「前時の振り返り」を確認する ②単元目標・本時の目標を理解し、学習活動への動機づけを行う。 ③時程を確認し、学習活動に規律と主体性を持たせる。	単元の半ばの指導であるため、目標の確認は簡単な説明で済ませ、特に本時の時程の共有に重きを置くこととする。
展開 35分	①抽象語「メディア」、「権力」の辞書における意味を理解させる。 ②活動1「抽象語の読解①」(個人) ③活動2「抽象語の読解②」(話し合い) ④ノートに要点を整理する。	①本文の抽象語の意味を理解するとともに、その意味を踏まえて、筆者が具体的にどのように言い換え、説明しているかを読み取る。 ②個人で本文を読み、「メディア」の具体および「メディア」の特色について読み取る。 ③本文を精読しながら、話し合いをし、「権力」と関係性の深い箇所に傍線を引き、ワークシートに記入する。 ④テレビの持つ「権力」の具体とともに、背景(要因)も理解し、論理的思考力を養う。	・抽象語について、一般的な意味を理解した上で、筆者の考えについて、読み取らせることで、知識を踏まえて、深く理解しようとする姿勢を身に付けさせる。【知】 ・話し合いを通して、自らの読解と他者の読解を比較、検証することで、相互に読解力を高めようとする姿勢を身に付けさせる。【読】 ・筆者の論を自分の身近な問題として考えさせ、筆者の考えをより身近なものとして捉えることを促すとともに、筆者の主張の深い理解を促す。【読】
整理 10分	本時のまとめ	抽象語の具体を読み取ることが、評論文読解の基本的な考え方であることを理解する。特に、本文のキーワードと思われる抽象的な語句について、「これは何だ?」と自ら疑問に持つ姿勢を養う(問題意識)。	ワークシート裏面の演習問題は時間がなければ、解答のみで構わない。ここで、評論文の基本は「抽象語の具体化」であることを学ばせたい。必ずここで10分間を確保し、十分な時間をかける【読】

【関】：関心・意欲・態度、【読】：読むこと、【知】：知識・理解